

乳製品需給等情報交換会議（書面開催）における御意見

ホクレン農業協同組合連合会

- 北海道の生乳生産については増産基調で推移しており、引き続き順調に維持される事が見込まれている。また、生乳需給については、長期に及ぶ緊急事態宣言等の影響により、業務用を中心とした乳製品需要は低迷が続いており、飲用需要についても都府県における天候不順も重なり見込みを下回って推移している。また、例年に比べ、都府県の生乳生産が堅調に推移していることから、北海道から都府県への生乳移出量が大幅に減少し、北海道での乳製品向け処理数量が大幅に増加していることから、バター・脱脂粉乳等の乳製品在庫が想定以上に積み増す状況となっている。
- これに対し、北海道では、国の対策の活用、乳業者の協力、生産者自らの大きな費用負担により、脱脂粉乳やバターの飼料転用や輸入調製品との置き換え等による新規需要の拡大に取り組んでいるが、需給は改善されず、置き換え等の数量以上に在庫が積み増しており、酪農経営への影響が懸念されている。
- 国家貿易による輸入数量の設定に当たっては、国際交渉の結果の約束として一定数量を輸入する必要があることは理解するものの、生産者としては、新型コロナウイルス感染症による需給悪化による国産乳製品在庫が過去最高水準に積み上がり、今後の酪農経営への影響が懸念される状況にあることも事実である。
- 国家貿易によって輸入される乳製品が、生産者や乳業者が一体となって取り組んでいる置き換え対策等に支障を来すことがないよう、適切に運用されることを強く要望する。
- いずれにせよ、乳製品の輸入枠設定については、現在の国産乳製品の在庫状況や国際交渉上の約束事であることを踏まえると、ある程度バターの数量に寄る事は理解するものの、現在、国の支援も受けながら、生産者も大きな負担をしながら取り組んでいる輸入乳製品との置き換え対策の実効性が損なわれる事の無いよう、入札・放出の時期や数量について、十分配慮を頂いた中での運用を改めて強く要望する。

一般社団法人中央酪農会議

- 酪農業界としては、新たな「酪肉近代化基本方針」に掲げられた増産目標を達成するよう基盤強化に取り組み、生乳生産量は、昨年度から全国的に増産基調で推移している。
- こうした状況下、これまでひっ迫傾向であった国内生乳需給は、コロナ禍において緩和傾向へと転じ、今年度末の乳製品在庫量は、脱脂粉乳（8.5カ月分）、バター（5.9カ月分）と非常に大きな水準が見通されている。
- このため、国内需給の安定を図る観点での乳製品輸入は不要な状況であるというのが、率直な業界としての意見である。ただし、国際約束上、一定の輸入をせざるを得ないのであれば、年度当初に設定した137千t（生乳換算）の範囲内に留め、追加的な枠

の設定は行われないう要望する。

- また、今後の輸入にあたっては、現在乳製品在庫解消に向けて国の支援を受け生産者団体が取り組んでいる海外乳製品と国産品との置換への影響が懸念されることから、売渡時期や数量等の運用面においても最大限ご配慮いただきたい。
- なお、業界においては、需給改善に向けて努力しているところ、農水省においても、後押しするような支援策をお願いしたい。
- さらに、これから生乳の不需要期を迎えるが、生乳の完全販売が達成されるよう、業界へのご支援・ご指導をいただきたい。

#### 一般社団法人日本乳業協会

- 全国の生乳生産は、一昨年から回復傾向に転じ堅調に推移している一方、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中で、業務用を中心とした牛乳乳製品の需要の回復の遅れが深刻化さを増してきており、今後も厳しい状況が続くものと考えている。
- この様な状況の中で、家庭用バターの需要は、昨年の巣ごもり需要の反動はあるが、依然として堅調に推移している。また、市場は落ち着いており、今後も欠品などの問題は無いと考えている。
- 業務用バターについては、洋菓子・製パン向けのポンドバターの需要が戻ってきているものの、「緊急事態宣言」の再発令・延長により、外食・みやげ業界向けのバラバターの需要は引き続き低迷していることから、市場全体としての業務用バターの需要回復は難しい状況にあると考えている。
- また、同様に、脱脂粉乳についても需要の動きは鈍いことから、引き続き厳しい状況が続くと考えている。
- 現在、進めている行政による支援措置や生産者団体と連携した自主対策を講じているにもかかわらず、脱脂粉乳・バターともに在庫水準は過去最高水準に積み上がっており、需要予測では生産量が、さらに増加する見通しであることから、本来「バター・脱脂粉乳ともに輸入する必要はない」と考えている。
- よって、国家貿易による乳製品の輸入・売渡については、国内の需要を踏まえて適切な運用をお願いする。

#### 一般社団法人Jミルク

- 近年、都府県の生乳生産が減少傾向で推移する中で、需要期を中心に生乳需給のひっ迫が常態化してきたことから、中長期的な安定供給を図るべく、関係者の努力により、ようやく増産という形で全国的にその成果が表れてきた。
- 一方、需要面においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、緊急事態宣言などが断続的に実施されたことによる外食や観光業等への深刻な影響から、業務用を中心とした牛乳・乳製品需要の低迷が、1年半に及んで継続している状況にある。
- この様な中、高水準となっている乳製品在庫については、国や生産者による対策などにより、飼料等への活用対策が進められているが、引き続き高水準の在庫となる見通し

である。

- 現在、一部地域の生産者や乳業者が中心となりコストを負担して需給調整が行われているが、新型コロナ禍という一種の災害による要因が主であり、この難局における在庫削減に向けた対策については、全国の生産者・乳業メーカー全体の課題として、業界一丸となった取り組みが必要である。
- また、国産牛乳乳製品の需要拡大に向けては、コロナ禍における需要構造の変化を捉えながら、新商品の開発や輸出を含めた新規需要創出に努めるとともに、業界全体で需要喚起に継続的に取り組むことが重要である。
- こうした業界の取り組みを後押しする観点から、国からの更なる支援とともに、国家貿易の輸入・売渡についても、現在の需給動向や TPP11 等の自由貿易協定の動向を十分に考慮した上で、適切な運用を期待する。

## 卸売業者

### 【業務用】

- 需要者側の状況に大きな変化はないものの、8月の天候不順や、昨年効果のあったGOTO トラベルの影響や緊急事態宣言解除による今後の動向について注視している。
- バター・脱脂粉乳の国内在庫について、各乳業メーカーが減少に向けて取り組んでいるものの限界があり、国内在庫の減少には至っていない。
- バターにおいては、価格対策では海外品との価格差があり変化は期待できず、逆に国産同士での価格の下げ合いとなり、在庫消化とはほど遠い状況である。このため、海外産から国産へ使用変更を大きく促す施策が必要である。
- 一方、脱脂粉乳については、引き続きスポット販売は散見されるものの、価格がある程度下がった影響のためか、大口需要者側からは、価格だけではない安定調達を求められる意見も増えつつある。しかしながら、バター同様、脱脂粉乳の国内在庫を大きく改善できる状況ではない。

### 【家庭用】

- 家庭用バターは、売場におけるバター欠品は完全に解消されており、供給は順調であると認識している。
- また、安定供給を目的とした主要バターの割当納品も一部を残し8月に解除しており、納品率（※）も80%強から93.8%と大幅に改善している。  
〔（※）「納品率」 = 「小売店への納品数量」 ÷ 「小売店からの発注数量」 〕
- 当社売上高実績においては、昨年度のコロナ禍の影響を強く受けた4月・5月はバター売上高激減で苦戦したが、6月～8月は概ね前年並みの推移となった。
- 一方、一部メーカーでは在庫過多の課題を抱えており、販促による需要活性化に向けた動きもみられる。各メーカーの対応は様々であるが、連携強化し、年末の最需要期に向け、前年並みの売上高確保を目指している。
- 供給が安定しているとはいえ、引き続きバター動向には最大限留意しながら、需給調

整の一翼を担うべく尽力していきたい。

#### 一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- スーパーマーケットでのバター等の欠品は報告されていない。
- バター、乳製品のカテゴリーの販売実績は8月前年98.7%、2019年比105.8%であり、コロナ禍の状況でも順調に推移している。
- 今後は、緊急事態宣言が解除されスーパーの売上の減少が想定されるものの、大きな減少はないと予想している。

#### 一般社団法人全国消費者団体連合会

- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期に及ぶ中で、牛乳・乳製品の家庭用消費が好調に推移してきたのは、巣ごもり需要だけではなく、これまで以上に健康や栄養への関心が高まっていることも大きいと考えている。
- 消費者には、牛乳・乳製品の持つ免疫力などの機能性や効能にも注目が集まり、また子どものおやつにも乳製品には安心感があるという声や、自宅で一緒にお菓子作りをする取組などがオンラインの活動で広がっていたことも最近の特徴の一つである。
- 10月から乳業大手メーカーが家庭用マーガリンを値上げするとの発表があったが、過去には牛乳やバターで価格は変わらなくても容量が減っている「ステルス値上げ」と言われるものが消費者の間で話題になったことがある。
- このため、今後、緊急事態宣言の解除により社会や経済の動きに変化が生じて、家庭の食生活に欠かせない乳製品の需給に関して、消費者に不利益となる価格の変動や在庫不足などが起こらないよう、引き続き動向の注視をお願いします。
- また、今回の資料を拝見し、生産者と乳業メーカーの置かれた状況の厳しさを理解した。消費者としても、生産の現場に想いを馳せ、需給緩和の難局を乗り越えるために応援する意識を持つなど、対策の一翼を担う必要性を感じているので、現状の把握と情報共有につながる発信の仕組みの検討をお願いします。

#### 一般社団法人日本パン工業会

- パン業界では、バター・脱脂粉乳の需要が安定的に推移しており、バター等の調達には特段の支障はない。また、国産バター等の調達・使用割合が増えており、調製品からの国産バターのシフトも進んでいる。
- 今後も、国産バター等の安定的な供給をお願いします。

#### 協同組合全日本洋菓子工業会

- バターの調達については、現時点で問題は発生していない。
- また、年末のクリスマス需要期に向けても、既に多くの事業者が一定の在庫も確保していることから、不足や混乱はないものと予想している。
- 今後についても、引き続き安定供給されるようお願いする。

#### 一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- バターの供給に大きな変化はみられず、安定した状況が続いているが、生菓子の購入・消費は堅調であり、緊急事態宣言解除後の贈り物用等、焼き菓子の消費増加が見込まれていることから、今後、バターの供給に変化が出る可能性はある。
- また、新型コロナウイルス感染症や海上コンテナ輸送の需給ひっ迫等の影響により、各種製菓材料の値上げが続いており、バターについても便乗値上げ等、その影響を懸念している。

#### 全国菓子工業組合連合会

- 菓子業界では、引き続き、旅行客・行事の減少等から、土産菓子や贈答用を中心に販売額減少等の影響が続いている。
- 一方、家庭内の堅調な需要もあり、経営形態によって、その影響度には大きな差が生じている。
- 乳製品の供給については、当面、量的な不安はないものの、バターの価格が高止まりしており、経営を圧迫しているため、今後の輸入枠の検討に当たっては、低廉な乳製品の供給が円滑に行われるよう配慮をお願いします。

(以上)